

あの人のこんな趣味

基礎・境界ソサイエティで活躍している研究者の趣味を御紹介します。
あの人のこんな趣味，御存知でしたか？

渡邊敏正さん(広島大学)テニス

渡邊さんは，組合せ最適化問題の計算複雑度解析とアルゴリズム設計への貢献に対して電子情報通信学会フェローの称号を与えられました。この研究の原点は，少年時代からされているテニスの経験にありました。

いつか挑戦したいと思っていましたが，このインタビューからまだまだ修行が必要と感じました。(インタビュアーの田岡智志さん(広島大学)談)



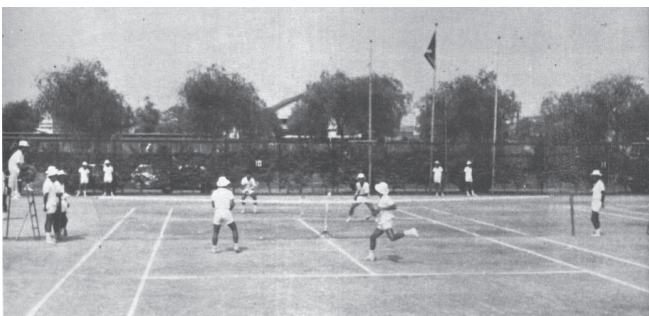
■渡邊敏正さんへのインタビュー

Q1. テニスを始めたきっかけを教えてください。

直接は叔父の影響だと思います。中学から軟式テニスを始めましたが，中学終りころに叔父が硬式テニス(当時はテニスは軟式テニスとの区別でこのように呼びました)のラケットをプレゼントしてくれ，日曜日にコーチという名目で自分の相手をさせたことが，テニスとの付き合いの始まりです。中学で「テニス」に興味を持ったのは，幼稚園の年ごろに田舎で間近に見た軟式テニスの試合が影響しているのではないかと考えています。

Q2. テニスの面白さについて教えてください。

テニスの基本は1対1ですが，すべてが自分次第，というところでしょうか。もちろん，ダブルス(複)も好きですが，どちらかというシングルス(単)です。テニスとは現在まで約46年の付き合いです。現在も週1回(大抵は土曜日)，9:00～11:00の2時間，叔父とシングルスをやります。74才と59才が2時間コートを走り回ります。相手の意図を予想したり，ボールを追っかけたりすることは楽しいですね。テニスプレー中の写真は以外と少なく，下に掲載したのは，大学3年生のとき山口県宇部市における合宿での練習試合のスナップです。向こう側右の選手が私です。古い写真で解像度も悪いですが，当時の雰囲気だけは伝わってきます。



学生時代のテニス部合宿でのスナップ(1970年8月)



テニス姿の渡邊さん(2008年9月)

Q3. 好きなテニスプレーヤーは誰ですか？

その時代のトッププレーヤーの全員ではありませんが，多くは好きになります。見る機会が多いことも理由かもしれませんが，男性では，レーバー，ローズウォール，亡くなったアッシュ(この人達は実際にコートでプレーを見ました)，ボルグ，コナーズ，ベッカー，エドバーグ，最近では，フェデラー，それに錦織君ですね(彼のストロークは私が真似すると体を痛めそうです)。国内では，神和住純さん(当時，国内ランキング1位)のプレーは好きでした。何度か対戦していますが，天性の勘を感じさせるテニスをします。(全米選手権で2回戦突破の日本人記録は先日錦織君が破りました。)女性では，ナブラチロワよりはエバートが好きでした。またグラフも良かったですね。最近までは，クライシュテルスに注目していましたが，21歳での引退は残念でした。プレースタイルではどちらかというオールラウンドが好きです。

Q4. 思い出の試合があったら教えてください。

たくさんありますが，いくつか挙げてみます。学生時代では，まずは大学2年生の5月にあった中四国地区の1部校，2部校入れ替え戦での最終戦です。ノーシードの私が1部校の相手大学NO.1(シード選手)に挑んで勝った試

合です。大学3年生では、春および秋の中四国学生個人戦で2大会連続単(シングルス)決勝での敗戦です。春は4年生の中四国NO.1に、秋は実力NO.1の8年生に勝てませんでした。秋の大会で複は優勝。4年生では、中四国学生団体戦の最終戦や個人戦の単複決勝です。団体と単は勝利、複は負け。団体戦は全日本王座戦、個人戦はインターカレッジ等に出ました。インターカレッジや関西学生選手権でも印象に残っている試合はあります。社会人では、32歳の時の中国選手権シングルス決勝戦です。相手はプロ選手でしたが、ファイナルセットで勝ちました。中国地方最大の大会で、単優勝1回、複優勝3回だったと思います。準優勝やベスト4は合わせるとかなりあります。その結果、当時国内最大の大会である全日本テニス選手権も何度か出場できました。アマチュアですが、プロの試合(予選です)にも出ました。予選通過(2試合勝ち抜き)はできませんでした。学生、社会人を通して国民体育大会は10回近く出場し、全日本クラスの選手と何度も対戦しました。勝ち少ないですが、

Q5. テニスが、御研究に役立ったことはありますか？

直接研究に役立つわけではないですが、間接的には有用です。まずは、若いときは体力強化、年を取ってくると体力維持ですね。それに目の遠近調節力の維持です。次に、挑戦してみる、とにかくやってみる、という態度でしょうか。やる前にあれこれ考えすぎないこと、正面からぶつかってみる、という習慣(考え方)ですかね。テニスを通じていろいろな研究者と知り合いになれたことも役立ったことになるでしょう。経験がないと理解が難しいかもしれませんが、テニスが強くなるためには、テニスを知り、自分を知り、何をどうすべきか、しっかり考えて自分のメンタリティー、体力、技術等を強化改良していく必要があります。研

究と共通点が多いのです。このようなことを経験したこともテニスに打ち込んだ御利益かもしれません。この辺りのことも学生に伝えたいな、と思います。

Q6. 現在、興味をもって御研究されているテーマをお聞かせ下さい。

最も興味を持っているのは、グラフの連結度です。辺連結度と点連結度がありますが、点連結度はまだ分からないことも多く、研究を続けたいですね。特に、これまで、辺付加による連結度増大問題を中心に取り組んできました。所望の連結度を達成するために付加する最小辺集合を求める問題で、辺重み総和の最小化が目的関数です。一般的にはNP完全ですが、均一重みのときの任意の辺連結度については多項式時間アルゴリズムを与えました。点連結度を3にするときの多項式時間アルゴリズムも与えました。点連結度の3から4への増大については多項式時間アルゴリズムがありますが、5以上の場合未解決です。任意の点連結度を達成する指数関数時間アルゴリズムの存在は既知ですが、どこまで多項式時間アルゴリズムがあるのか不明です。何とか解明したいと思っています。連結度以外の問題では、種々の制約下でのグラフの平面性にも興味があります。プリント基板設計などへの応用があります。その他、グラフ理論、ペトリネット、並列処理、各種のアルゴリズムやデータ構造の設計等です。

Q7. 読者へのメッセージをどうぞ！

何かのスポーツにいそむことは、体力の強化や維持、気分転換などに役立つと思います。研究も体力勝負ですから、また、いろいろな分野の方と知り合いになるきっかけを与えてくれます。外国生活でも、スポーツを通じて地域に溶け込む機会を得て、大学人のみならず一般の方達との交流まで生まれ、有意義な滞在を経験しました。